

# 巨大地震への備え



4月14日の午後10時26分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、最大震度7の巨大地震が発生し衝撃がはまりました。その地震から程なく、16日午前1時25分、マグニチュード7.3、最大震度7が再び熊本県を襲い、甚大な被害をもたらしました。現在も324カ所の避難所で約1万4千人が避難生活をよぎなくされているところです。（5月8日現在）

今後30年以内に70%の確率で発生するといわれている南海トラフ巨大地震。ここ曾於市においても、最大震度6強が予想されています。

「いざ」という時、私たちはどうすればいいのか。総務課消防防災係危機管理監の江崎隆一さんに話を伺いました。



えさきりゅういち  
**江崎 隆一** (54 歳)

曾於市危機管理監(平成 28 年 4 月～)  
鹿児島市生まれ  
昭和 56 年、陸上自衛隊に入隊。那覇  
駐屯地では、防衛幹部として 2 年間、  
防災について沖縄県との連携調整業  
務に努めた。

危機管理監に  
**聞く!**

# 3 災害への備え 原則

## 1 自助

「自分の命は自分で守る」

何日分の物資の備えが必要か

1 週間分の物資を備えとい  
てください。薬やおむつなど  
は避難所へ届くのに時間がか  
かる場合があります。各自で  
備えておくことが大切です。

大切な家族を救うために  
も、自分の命は自分で守るこ  
とが必要になってきます。

災害がおきた時どうすればいいか

まずは避難してください。  
迅速にそして安全に避難でき  
るように、防災ガイドブック

に付いている防災マップを広  
げ、家族で話し合ってください。  
自宅周辺や通勤通学経路  
の危険箇所を確認することが  
避難への第一歩です。日中、  
仕事や学校で家族が別々の場  
所にいることが想定されま  
す。そんな時のためにも、避  
難所を決めておけば家族の安  
否確認が取りやすいと思いま  
す。



## 防災ガイドブック

■ 2016 年 3 月制作



いざというときに備え、日頃  
から避難場所、避難経路、家  
族の連絡先、避難時の心がけ  
などを、この防災ガイドブック  
と防災マップをもとに話し合  
って防災に役立ててください。

※防災ガイドブックは、市ホーム  
ページからもご覧いただけます。



## 最低限そろえておきたいもの

懐中電灯、非常食（缶詰、レトルト食品、ドライフーズ、チョコレート、アメなど）、水（1人あたり1日3リットルが目安）、携帯ラジオ、救急薬品、常備薬、貴重品（現金、預金通帳、印鑑、免許証、健康保険証など）、その他（紙おむつ、ほ乳びん、ライター、ヘルメット、衣類など）



## 防災マップを活用しましょう

家庭や自治会の集まりなどで防災マップを広げ、危険箇所を確認し避難経路や避難場所の共有を行いましょう。いざというときの備えと訓練の積み重ねが命を救います。

自治会でも防災マップを活用してほしいです。地域のこととは、そこに長年住んでいる地域の方が一番知っています。

## 2 共助

「いざという時の組織力」

自治会の役割とは

高齢者、障がい者、妊婦、子どもなどをいち早く安全な場所へ避難させるために、多くの人が知恵を出し合い、その自治会独自の防災マップを作成し、互いに助け合う取り組みを行ってほしいです。



## 3 公助

「市民の命を守るために」  
大規模な災害がおきた時  
市はどう動く

大規模な災害がおきると、まずは災害対策本部を設置します。次に、各職員が被害の状況を収集して報告します。集められた情報を精査し災害救助や復旧活動への指示へと繋がっていきます。

## 防災計画の見直し

今年度は防災計画の見直し年度になっています。これまでの震災や災害での教訓を取り入れながら見直しを行っていきます。曾於市を含む他の自治体も防災計画はあるがマニュアル化されていないのが実情です。誰がどこで何の情報収集するかを明確にし、職員の研修を積んでいく必要があります。

南海トラフ巨大地震では、曾於市においても崖崩れや家屋倒壊など多くの被害が想定されています。もしものときの備えについて家族・地域で話し合ってみましょう。



**危険七地**  
**UNSAFE**

● 土砂崩れ・大規模な土砂災害の危険性が高い  
● 大規模な土砂災害の危険性が高い  
● 大規模な土砂災害の危険性が高い  
● 大規模な土砂災害の危険性が高い  
● 大規模な土砂災害の危険性が高い  
● 大規模な土砂災害の危険性が高い  
● 大規模な土砂災害の危険性が高い



熊本地震は熊本・大分両県を中心に甚大な被害をもたらしました。支援物資の不足や相次ぐ余震、車中泊による健康被害など現在も多くの方が不安のなかで生活しています。被災者を支援するため全国各地から被災地への支援の輪が広がっています。

曾於市においても物資の支援や職員派遣を行い、一日も早い復旧・復興への手助けを行っています。



## 支援物資

4月21日(木)

熊本県宇城市・宇土市へ

◆支援米 各200俵

◆トイレットペーパー

◆おむつ(成人用・幼児用)

◆割り箸・紙皿セット

5月18日(水)

熊本県宇城市へ

◆ブルーシート

◆ポット



支援物資を乗せて被災地へ出発



市民 309 人から支援米約9ト提供

熊本県宇城市へ1週間災害派遣で行ってきました。現地では主に罹災証明を発行するための資料となる家屋調査を行いました。

震災から1カ月が過ぎましたが、余震も続き、具体的な支援もみえてこないなかで住民の方は多くの不安を抱えて生活されているようです。

実際に被災地で仕事をして、住民の方と接することで、復興までの道のりはまだまだ遠いと感じました。引き続き近隣自治体による長期的な支援が必要だと思います。



大隅支所地域振興課  
美坂 成人  
派遣業務：被災家屋調査



募金活動



被災者住宅の片付け



4月29日から5月1日の3日間、ボーイスカウトが熊本県菊陽町において、熊本地震災害支援活動を行いました。ボーイスカウト日本連盟が当地にボランティア活動拠点を設置したことにより、曾於市から11名を含む鹿児島県のボーイスカウト39名が派遣され、被災者住宅の片付けなどを行いました。

また、被災者への募金活動を5月7日にガールスカウトと共に、集まった募金は義援金として日本赤十字社等に寄付されました。

## 職員派遣

派遣期間

4月21日～6月10日(予定)

派遣場所

◆熊本県宇城市

◆熊本県上益城郡甲佐町

◆熊本県阿蘇市

派遣人数

38人(予定)

業務内容

支援物資配達、罹災証明発行、被災家屋調査、水道漏水調査、建物応急判定、被災地危険度判定など

